



# “激動の40年、世代間の感覚の違い 10年後の子どもたちに 何を継承していけるのか—”

「インヘリタンス-継承-」特別インタビュー《後篇》

## 福士誠治

SEIJI FUKUSHI

2018年にロンドンで初演。オリヴィエ賞4部門、トニー賞4部門受賞と世界を感動に包んだ話題作が、北九州市出身であり今演劇界で最も注目される演出家の1人、熊林弘高の演出で日本初演! 現代NYのゲイコミュニティを舞台に綴る、前後篇6時間半のラブ・ストーリーという大作に挑む主演の福士誠治さんにお話を伺いました。

—今回演じるエリックという人物について、どのように捉えていらっしゃいますか?

エリックはいい意味で人と人との間のバランスを取る人です。色々な人がいる中で、彼がいる事でその空間が居心地良くなる瞬間が多くなる。そういうところは自分も心掛けているところがあって、似ているかもしれないですね。ただ物語の後半で何かを選択していくような場面では、普段そういう風に生きていないだけに、とても苦しんだり悩んだりする。年代的にもちょうどリアリティをもって人生を考え始める世代だし、色々な事を経験して、傷ついて、愛を貰って、また構築しながら自分にじっくりくる感覚を見つけていく、人生とはそういう作業なのかなと、エリックを演じながら思っています。

—共演者の方の印象はいかがですか?

大先輩の麻実さん、山路さん、篠井さんはもう本当に有難い存在です。山路さんとは結婚する間柄なので一緒にシーンも多いのですが、山路さんのカッコいい声にエリックは惚れたんだろうな、と思う位いい声です(笑)。麻実さんは物語のラストに登場されますが、1幕の最初から麻実さんに会うのを楽しみに、自分の中で旅をするつもりで演じています。麻実さんの長台詞のシーンはずっと聞いていられる、俳優として凄く贅沢な時間ですね。篠井さんは、今僕の中でとても心の癒しになっていて、これだけ芝居量があって皆大変な中、すごくいい、これからだね、頑張ろう!とか、とても優しく心のケアをしてくださって、

篠井さんとお喋りをする事で癒されて、よし頑張ろう、と思わせてくださる方です。あとは青年達はもう本当に一蓮托生、みたいな(笑)。皆で頑張ろう!という思いが凄くある。個人個人で頑張つつ舞台上で出合っ、稽古の前後にもさらに深めあっています。

—福士さんはHIVやLGBTQ含め、世の中の捉え方の変化、みたいなところを真ん中で見つけて来られた世代かと思いますが、コロナ禍を経て、改めて今どのように感じていらっしゃいますか。

コロナによって、これまで話に聞いていた感染症流行というものを殆どの人が体験する出来事が起こりました。流行初期には、都会から田舎に帰ると玄関に誹謗中傷が書かれていたとか、怖さや未知なるものへの警戒心から来るのですが、ニュースを見るとやっぱり悲しくて。でも今ならそういう見聞きして感じたものも継承し、伝えていく事が出来るような気がします。経験していない子供たちに、10年後また同じような

事が起こった場合、何を伝えるとそういう偏見がなくなるのか—。

今、4年位でここまで来れたのはとても早いと思うんですね。医療従事者の方が頑張ってくれたり、製薬会社さんが頑張ってくれたり、HIVでは約20年以上かけて死に至らない位までの薬が作られて、やっぱり、何かを経験した事によってそのまま何もなかった事にははいけない。HIVの流行から今に至るまでがあったからこそ、ゲイコミュニティが世の中に出て来た時代でもあって、作品は40年ぐらいのお話ですが、ゲイコミュニティは何千年何万年の歴史があって、そういう意味では信じられないぐらい激動の40年ですね。インヘリタンスでは60代、30代、20代というその感覚の違いみたいなところも語られます。話に聞いたり知識としては持っているけど、どう感じるか、という事を次に伝えなければいけないし、その“心の動き”のようなものこそが、人にとっては凄く大事なのではないかなと思っています。

### Information

#### 「インヘリタンス-継承-」

3月9日(土) 13:00開演(前篇) / 18:00開演(後篇)

J:COM北九州芸術劇場 中劇場

[作] マシュー・ロベス

[演出] 熊林弘高

[出演] 福士誠治、田中俊介、新原泰佑、榎木玲弥、百瀬 朔、野村祐希、佐藤峻輔、久具 巨林、山本直寛、山森大輔、岩瀬 亮 / 篠井英介 / 山路和弘 / 麻実れい(後篇のみ)

インタビュー前篇・チケット購入は  
公演情報はこちら



※R-15指定作品  
※前後篇セットチケットのほか  
シングルチケットもあり



2024.3.9(土) 13:00開演 / 18:00開演 | J:COM北九州芸術劇場 中劇場